病理専門医部会会報　令和 7 年 1 月

病理専門医制度運営委員会だより（第 41 号）

1.　2025 年度の病理専門医受験申請について：

2025 年度病理専門医試験受験申請（電子申請）は 2025 年 4 月 1 日より 5 月 1 日までを予定しています。2025 年 3 月ごろに要綱を公開し、4 月上旬に WEB での試験申請書類提出ガイダンスを行いますので、受験される方はぜひ参加していただきたいと思います。

受験申請準備の際に重要となる事項を列挙します。

〇人体病理学の業績：人体病理の業績は 3 編以上が必要です。あくまでも「人体病理（病理診断学）」の業績であることを念頭においてください。3 編中 1 編は論文でなければいけません。論文は「診断病理」や Pathology International（Letter to the Editor も可）以外に、適切な査読システムのある病理関連の雑誌であれば認められます。また人体材料を用いた実験的研究の場合や、病理関係の雑誌でない場合でも、適切な査読システムのある雑誌であり、かつ論文の主旨に病理診断が関係し、病理診断に関する写真（図）があれば認められます。論文の中に病理組織の図が全くないような論文では疑義が生じてきますのでご注意ください。なお、国内誌で大学や病院など施設単位の紀要レベルのもの、都道府県単位の地方誌レベルのものは、たとえ英文誌であっても原則として業績の対象外となります。掲載雑誌や学会発表の内容などが受験資格として適切かどうか判断が難しい場合は、事前に病理学会事務局にご相談ください。また業績 1 編のうちどれか 1 編は受験生本人が筆頭でなければなりませんが、これは学会発表でも可です。学会発表は原則的に病理学会（総会・支部会）での発表のものとします。その他の学会の詳細は要綱でご確認ください。支部会や他学会での発表を業績とする場合は、受験生本人が筆頭演者であることが必要です。

〇受験に必要な講習会：「剖検講習会」、「病理診断に関する講習会」、「分子病理診断に関する講習会」を確実に受講していることの確認をお願いします。剖検講習会は春の総会時に開催されています。受講者は事前に病理学会 HP に掲載される「剖検講習会について」を確認してください。受講前までに HP に掲載されている課題に対するレポートの提出が必要です。提出方法は病理学会 HP「剖検講習会について」をご確認下さい。2024 年度細胞診講習会は 2025 年 1 月 25～26 日に WEB で開催されます（受付は既に終了しています）。

〇死体解剖資格（病理）：死体解剖資格や病理専門医受験のための解剖症例に、医師臨床研修（いわゆる初期研修）期間の症例は認められません。病理専門医受験のための解剖症例は、病理専門研修開始後の症例だけが対象となります。また死体解剖資格を取得するには、開頭を含む剖検症例が 1 例もない場合、認定が保留されますのでご注意ください。死体解剖資格審査はかなり遅くなることがあり、4 月末の受験願書締め切りに間に合うように、受験予定者は死体解剖資格の要件を満たした時点で直ちに申請をしてください。死体解剖資格（法医）保有者は、別途死体解剖資格（病理）を取得する必要があります。

〇剖検症例数：3 年間で 24 例が必要で、さらに 1 回目の更新までに剖検講習会の受講と 10 例の剖検症例の提出（副執刀・指導症例も含む）が必要となります。

〇 CPC レポート：4 例分必要です。内容不足で再提出となるケースが多いです。臨床経過、臨床上の疑問点、病理写真を含む病理所見、考察、死に至る病態のフローチャートまでを含んでいる必要があります。パワーポイント形式・word 形式いずれでも構いません。

〇 JMSB Online System+（日本専門医機構研修システム）での研修修了申請について（2018 年度以降の研修開始者のみ）：対象者は受験申請前までに、「研修修了申請」を行いプログラム責任者に「研修修了申請」の承認を受けてください。研修は原則として基幹施設と連携施設で行う必要がありますが、週 1 回程度他施設で研修を行うことで研修修了できる場合があります。この場合システムの備考欄に週 1 回研修の施設名と研修期間を記載していただく必要があります。1 つの研修施設の登録だけでは日本専門医機構で研修の承認がされず、試験合格後も認定証が発行されません。登録方法の詳細は以下よりご確認ください。

https://www.pathology.or.jp/senmoni/jmsb_system.pdf

2.　2025 年度病理専門医試験について：

2025 年度の専門医試験は、8 月 23 日、24 日の土日に東邦大学医学部で実施致します。PC を用いたヴァーチャルスライドと写真（PDF 配布）で試験を行います。PC はレンタルで用意しますので、持ち込みは不要です。ビューワーは浜松ホトニクスの NDP.view2 画像閲覧ソフトウエアを使用します。ヴァーチャルスライドに事前に慣れてから試験に臨んでください。ソフトウエアは浜松ホトニクスのホームページからダウンロード可能です。

（https://www.hamamatsu.com/jp/ja/product/life-science-and-medical-systems/digital-slide-scanner/U12388-01.html）。

また、サンプルデジタル病理画像（WSI）を会員専用ページに掲載しておりますのでこちらも練習のためにご活用ください。（https://e-learning.pathology.or.jp/course/view.php?id=63）

3.　2025 年度の病理専門医資格更新について：

専門医更新の申請は電子申請と郵送申請の選択制です。本年度の大多数の電子申請者からは、電子申請して楽になったとの声を頂いていますが、電子申請の際には受講証などの書類を

pdf 化する必要があります。

2025 年度の更新対象者には 9 月ごろ病理学会会員システムのメールアドレスへ、電子と郵送のいずれかを選択するメールが届きます。選択後に、それぞれの手続きが案内されますが、メールでの回答がない場合やメールが不達の場合は自動的に郵送申請になります。更新手続きの詳細は（https://pathology.or.jp/senmoni/koushinkijun.html）をご確認ください。

更新に関して注意すべき重要な事項を記載します。

- **2020 年 11 月以降、2025 年 10 月までのものしか認められません。**
- **共通講習の医療安全･倫理･感染はそれぞれ 1 単位必修です。**
- **臨床細胞学会の「細胞診専門医研修指定講座受講証明書」は共通講習の単位にはなりません。明確に「共通講習」と記載され、コード（登録番号）が記載された受講証明書が必要です。（下図参照）**
- **1 学会で取得できる領域講習の単位には上限があります(病理学会総会（春）: 12 単位、病理学会総会（秋）: 8 単位、臨床細胞学会 : 6 単位)。**
- **病理研修開始年が 2015, 2016 年の更新対象者は、病理解剖 10 体のリスト・病理報告書が必要です（2020 年 9 月 26 日以降の症例)。自ら主執刀した症例以外にも、副執刀や指導で関わった症例が対象です。**

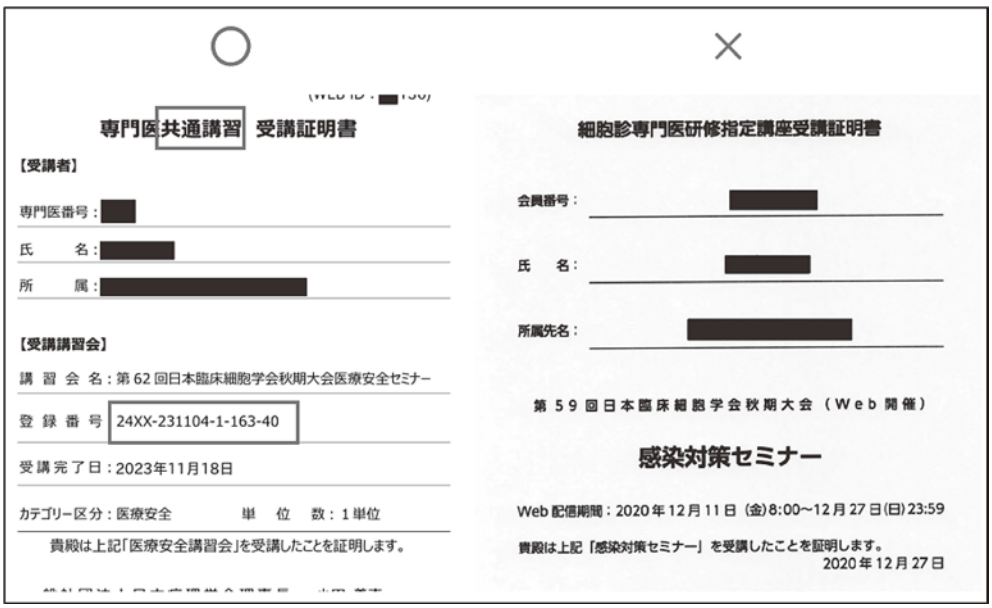
4.　希少がん e-learning・病理診断講習会について :

職場あるいは自宅でも学習可能で、専門医更新のための領域講習の単位になります。是非ご活用頂き、日常診療および希少がんの病理診断力の向上にお役立て下さい。

- 「希少がん病理診断画像問題・解説（病理学会希少がん HP)」を受講の際に病理領域講習の単位を付与します。
- 現在（6 月時点）は骨軟部腫瘍（31 コース)､脳腫瘍（20 コース)、小児腫瘍（29 コース)、頭頸部腫瘍（28 コース)、皮膚腫瘍（28 コース)、リンパ腫（31 コース)、希少サブタイプとして婦人科と乳腺が各 4 コースずつの全 175 コース（1 コース : 10 問）あります。
- 8 割（8 問）以上の得点で合格となり、1 コースにつき領域講習 1 単位が認定されます。ただし、専門医更新の病理領域講習に使えるのは最大 15 単位までです。
- 8 問以上をクリアするまで何度でも繰り返し受講することができます。
- 取得単位は病理学会会員システムの「単位」欄に自動的に反映され、更新の際に単位を印刷や添付するなどの手続きは不要です。
- 希少がん診断のための病理医育成事業ホームページ「コースカテゴリ」から会員システムの ID，PW を用いてログインし、履修することができます。
  https://rarecancer.pathology.or.jp/
- 希少がん診断のための病理医育成事業 「希少がん病理診断講習会」が年間 4 回開催されています。いずれも事前予約の WEB 開催です。参加者には病理領域講習単位が付与されるほか、病理専門医資格更新の病理領域講習として認定されております。

5.　専門医研修制度について（再掲）:

専攻医の採用が決定しましたら、プログラム制・カリキュラム制を問わず、専攻医自身が確実に専門医機構へ専攻医登録をしてください。登録時期は研修開始年度前年の秋（11 月頃）です。登録が遅れた場合の猶予はなく、1 年単位で専攻の修了が遅れることになり、かつ未登録時点での経験症例はカウント



されません。採用が決まった時点で直ちに専門医機構への登録も忘れずにお願いします。

6.　分子病理専門医認定制度について

・分子病理専門医認定者名簿を掲載しています。2024 年 4 月 1 日認定者も追加されています。
https://www.pathology.or.jp/senmoni/certified-pathologist.html

・2024 年度　第 5 回分子病理専門医試験は 12 月 15 日（日）に実施されました。

7.　専門医機構の動向について

〇専門医試験受験年限・回数の制限について：これまで学会主導の専門医試験の受験回数に制限はありませんでしたが、2017 年度以降の専門医機構での研修開始者は、今後は研修修了後 5 年以内（受験回数 5 回以内）が受験資格となります。育児や介護などやむを得ない事情がある場合は、1 年単位での延長は可能です。なお、受験年限の現時点の対象者は 2017 年度以降の研修開始者ですが、今後、日本専門医機構への制度移行に伴い 2016 年度以前の研修開始者にも適用となる予定です。ご留意ください。

〇2023 年 7 月以降に専門医資格の認定･更新がされた方には、医師免許証と同様、戸籍名の後に括弧つきで旧姓の併記が可能になりました。詳しくは JMSB Online System+でご確認ください。

https://sys.jmsb.or.jp/trainingProgram/html/index.html

8.　今後の日程について：

・希少がん診断のための病理医育成事業では引き続き希少がん病理診断講習会を実施しております。すべて事前申込制で、定員以上の申し込みの場合は抽選となります。希少がん HP（https://rarecancer.pathology.or.jp/）でご確認ください。また、主に若手を対象としてエキスパート育成講習会も開催しています。こちらも詳細は希少がん HP にてご確認ください。

・第 114 回総会は 2025 年 4 月 17～19 日に仙台市（仙台国際センター）で開催されます。

・第 71 回秋期特別総会は 2025 年 11 月 13～14 日に名古屋市（名古屋コンベンションホール）で開催されます。

（文責：森井英一・大橋健一・狛雄一朗・中黒匡人）

==特集　病理専門医試験・合格への道のり==========

病理専門医試験　合格への道のり

札幌医科大学附属病院病理診断科　　保坂 倫子

専門医試験受験を意識し始めて感じたことは、とにかく時間がない、ということです。最後に受けた試験は医師国家試験であり、勉強だけしていれば良かった学生のなんと気楽なこと…私は一体いつ勉強するんだ？と途方に暮れたのが始まりでした。2 年振りに復職して、0、4、6 歳の子供を育てながらの生活は目の回るような日々でした。平日日中は業務に追われ、帰宅後や休日に自分の時間はほとんどなく、自由になるのは通勤中の移動時間くらいでした。

試験対策として、まずは過去の試験問題を見て傾向を探るところから始めました。実際に診断したことはないけど、試験によく出る疾患があることに気付き、これらの疾患について簡単に調べてみました。この「試験によく出る疾患」については、日頃先輩方に「これ試験に出るよ～」とたくさんご提示していただいたことが大きな助けになりました。典型症例をまとめていただいたバーチャルスライドも活用させていただきました。本での学習については、「組織病理アトラス」では苦手な項目を中心に勉強しました。「病理診断クイックリファレンス」は時間のある時にパラパラ眺めるようにしていました。直前には「癌取扱い規約（各種）」をざっと確認しました。細胞診の勉強には「細胞診セルフアセスメント」や、細胞診講習会のテキストを使いました。スキマ時間の活用のために、「組織病理アトラス」と「病理診断クイックリファレンス」の電子版を購入し、スマートフォンで眺めるようにしました。正直に言うと写真が小さく見づらかったですが、少しでもできることをと思い使っていました。

III 型問題については、自分の経験した症例に似た問題だけは絶対に落とさない心積もりで復習を重点的に行いました。「CPC 形式でわかる身につく 病理所見の見かた、病態の考えかた」は短時間で読みやすく、バランス良く勉強しやすかった印象です。他の先生方も仰っているようにフローチャートは自分の手を動かしながら作成する練習をしました。

試験当日に感じたことは…「日頃の行いが問われている」ということです。試験は稀な希少疾患を当てるクイズではなく、日々の仕事で注意・意識することや病理診断を丁寧に行っているかを問われているように感じました。勉強時間として確保できた時間は短くても、これまでに出会った症例を大切すること、最後まで諦めないことで合格に近づけたと思います。

最後になりますが、私一人の力では決して合格できませんでした。日々のご指導や、たくさんのアドバイス、励ましの言葉を下さった職場の先生方に心より感謝いたします。「へー、テストなんだー。受かるの？落ちるの？」と邪気のない圧をかけ続けてくれた家族にも、ありがとう。

先達に倣い、先達に学ぶ

北海道大学病院病理診断科　　若林 健人

この度、病理専門医として認定頂きました北海道大学病院の若林です。自身も合格体験記を基に勉強計画を立てたこともあり、まだまだ未熟な点は自覚しつつ、後輩の参考になればと思い筆を執らせて頂きました。

2024 年は 3 月 28～30 日に病理学会が開催されました。私は 3 月までは学会発表に専念し、4 月から試験勉強と関係書類の準備を始めました。

まずは『病理診断クイックリファレンス 2023』と『組織病理アトラス』を用いて組織診断の勉強を始めました。ただ後者は少し情報が古く、最新の組織分類については癌取扱い規約や『腫瘍病理鑑別診断アトラス』シリーズで確認しました。更に診断経験が乏しい症例は過去の標本を持ち出して勉強しました。特に当院では非腫瘍性腎疾患の症例が少なく、『非腫瘍性疾患病理アトラス　腎』がとても参考になりました。

6 月からは『実用細胞診トレーニング』および『細胞診セルフアセスメント』を用いて細胞診の勉強を行いました。科内での細胞診のディスカッションにも参加しましたが、問題集の大胆な確定診断と、ディスカッションでの慎重な態度にギャップを感じ困惑しました。結局、あくまで試験問題は試験問題と割り切って問題集を重点的に勉強することにしました。

7 月から III 型問題の対策を始め、時間を区切って学会ホームページ内の過去問のバーチャルスライド見直し、所見の書き出し、フローチャート作成を行いました。

今振り返ると、III 型問題の対策はもう少し早く始めておけば良かったと反省しています。COVID-19 の流行などもあり剖検に参加する機会が少なく、CPC などにも積極的に参加し、普段から所見やフローチャートのまとめ方などの経験を積むことが非常に重要だと痛感しました。

また実際に試験を受けてみると、組織所見は当然ながら、肉眼所見も勉強が必要だと感じました（当たり前と怒られそうですが……）。2024 年度は肉眼所見から甲状腺疾患・脂肪性腫瘍の組織型を問う問題や、肺の区域を問う解剖学的な問題が出題され、「単に診断名と組織所見を 1 : 1 で覚えるのではなく、解剖および組織･肉眼所見を踏まえた『診断病理』を学びなさい」という学会からのメッセージなのだと（勝手に）思っています。

自身が行った内容をさっとまとめましたが、日々の診断業務をしっかりと行い、重要な疾患に関しては教科書や標本を用いて学べば合格する、という至極当たり前な内容になってしまいました。しかし学問に王道なしと言うように、愚直に 1 つ 1 つ知識や経験を積み重ねることこそが合格への早道なのだと思います。また合格体験記や過去の標本、教科書など、先人達が築いた財産を是非活用して下さい。他の方々のものに加えて、私の体験記が今後受験する方々の役に立ってくれたら嬉しく思います。

最後に、この場を借りてご指導いただいた先生方皆様にお礼申し上げます。今後ともご指導何卒宜しくお願い致します。

専門医合格体験記

山形大学医学部病理学講座　　浦野 友佳

「病理専門医試験・合格への道のり」へ寄稿の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。初期研修を山形大学で行い、医師 3 年目から現在まで山形大学で勤務しております。医師 8 年目で専門医試験を受験いたしました。3 歳、3 歳、1 歳（受験当時）の子ども 3 人と暮らしており、自宅で勉強時間を捻出するのが困難でした。1 年前から数分の隙間時間を使って知識を補い、6 月・7 月に職場で III 型問題の練習をして当日を迎えました。

知識の補強として､過去問と病理診断クイックリファレンス、組織病理アトラスを主に用いました。過去問 10 年分ほどに目を通し、わからない疾患を調べたり院内の標本をみたりしました。出題の傾向をつかむのにも役立ちました。

病理診断クイックリファレンスと組織病理アトラスは、一通り目を通し普段みることの少ない臓器を重点的に確認しました。私の場合は脳や軟部腫瘍の理解が弱かったので、そこを繰り返し勉強しました。病理診断クイックリファレンスは持ち運びしやすく、特によく使用しました。

先輩方が日々の診断業務で出会った症例の中から、めずらしい症例や専門医試験に出そうな症例を渡してくれたのもためになりました。

III 型問題は病理情報ネットワークセンターにアップされている剖検講習会の肉眼写真やバーチャルスライドを使って練習しました。III 型問題の実際の試験時間が 150 分でしたので、100 分程度で解答できることを目標としました。III 型試験問題の解き方は、当講座の先輩に教えてもらった、実際の剖検として解く、という方法が解きやすかったです。実際の剖検のように症例の臨床経過や解剖時の所見を読んだところで一度主診断と副診断、フローチャートを作成し、それから初めてバーチャルスライドをみて組織所見をふまえて解答を修正するというやり方です。（詳細は平成 26 年 10 月の病理専門医部会会報に掲載されています。）自分の中で整理されていない状態で組織所見まで考えようとして手が止まってしまうことを避けられ、限られた時間で解答することができました。また、日常生活で鉛筆/シャープペンシルを使って多量に筆記することがほぼないので、その意味でも練習しておいてよかったなと思います。

試験当日は朝に試験会場まで向かうバスの中で、勉強している受験生の先生方を複数お見かけし心強い気持ちになりました。試験が始まると問題ごとに指導していただいた先輩方を思い出し感慨深かったです。

今後も検体や標本の先には患者さんがいることを忘れず、日々精進してまいります。最後に、いつも丁寧にご指導していただいている二口充教授を始めとする山形大学の先生方と関連病院の先生方に厚く御礼申し上げます。

口腔病理専門医　合格体験記

東北医科薬科大学病院病理診断科　　齋藤 悠

私は臨床研修終了後、6 年間東北大学大学院歯学研究科顎顔面口腔外科学分野とその関連施設で口腔外科医として経験を積み、口腔外科認定医を取得しました。また、その期間に並行して口腔病理学分野にお世話になり、口腔顔面領域の病理診断の

経験も積みました。その後口腔病理専門医取得を目指し、東北大学病院病理部で口腔病理専門医研修を開始しました。2年前からは現在の所属である東北医科薬科大学病院病理診断科で病理診断業務に従事しています。改めて振り返ると、多数の所属先にお世話になるとともに、その先々で多くの先生方、スタッフの皆さんにご指導、ご協力をいただきました。この紙面をお借りして感謝をお伝えしたいと思います。

令和6年度口腔病理専門医試験は、私にとって2度目の受験でした。昨年不合格通知を受け取った後、自分の知識不足と何とかなるだろうという考えの甘さを反省し、今年の試験に向けた勉強に取り組みました。

今年私がやったことは、「口腔病理アトラス（文光堂）」「病理組織の見方と鑑別診断（医歯薬出版）」「病理診断クイックリファレンス2023（文光堂）」を中心に病理組織像を覚えることです。特に口腔病理専門医試験を受験する方は、口腔顔面領域の疾患の割合が多くなりますので、「口腔病理アトラス（文光堂）」は全て覚えるべきだと思います。勉強をしていると1つの疾患を深掘りしてしまい、王道から逸れがちですが、過去問や研修要綱細目に立ち帰り、試験に必要な知識を確認しながら広く知識を取り入れるよう気をつけました。剖検問題については、日本病理学会の剖検講習会の受講、科内での模擬問題の回答、試験を意識した剖検症例の診断書とフローチャート作成などで対策しました。また、臨床口腔病理学会の「剖検講習会」「細胞診講習会」「組織診講習会」は大変参考になりました。口腔病理専門医受験を控えている方はぜひ受講をお勧めします。勉強はすればするほど自分の知識不足を痛感させられ不安になりましたが、それに気づけたことを幸運と思い、一つずつ補強していきました。

意気込んで臨んだ試験1日目でしたが、III型剖検問題で空欄を作ってしまいました。今年も不合格を覚悟しましたが、気持ちを切り替えて2日目も最後まで回答しました。合格通知が届いた時には信じられない気持ちと、それを上回る嬉しさがありました。昨年不合格だったことは残念でしたが、自分に足りない知識はもちろん、取り組み方も指摘していただいたと思っています。人間万事塞翁が馬といったところでしょうか。

合格通知を受け取ってから3ヶ月程経ちますが、資格取得前と劇的に変化したことはほとんどなく、以前も今もコツコツ勉強する日々です。今後は歯科医師、口腔外科医、口腔病理医として自分にできることを考え、微力ながら医療に貢献していきたいと思います。

眠り猫

横浜市立大学大学院医学研究科・医学部　分子病理学
石山 貴博

私は専攻医になると同時に大学院に入学しました。4年目に専門医試験の受験が可能になったことで試験勉強と学位論文執筆を同時期にしなければならず、私も例に漏れずそれぞれに費やす時間の確保に苦労しました。最も大事なのがタイムスケジュール管理です。どんなに鉄の意志を持った人でも目の前にマッペの巨塔が建立された暁には、研究より優先して電カルを起動してしまいます。「明日から本気出す」この魔法の言葉を詠唱して縋っていると、実験スケジュールが遅れてしまいます。一度遅れると研究そのものが疎遠になり、気がついたら診断の鬼と化しています（仕事人としては素晴らしい）。

そこで私が提唱したいのは、1週間の実験スケジュールを先に立て、それに合わせて仕事をはめ込んでいく方法です。待ち時間が長い実験の合間には診断ができます。解剖依頼が舞い込み、時間を取ることが難しいと予想できる時には論文を読む、マテメソを整理するなど、隙間時間にできるデスクワークを行います。今日は診断する時間がないから、その間はインスタやXを封印するぞと出力を上げていくことで次第にやりくり上手になり、気持ちのメリハリもつくという相乗効果があります。

研究は無駄の多い作業です。やっていることが上手くいく保証もなければ、着実に前に進んでいるのかも後から振り返らないとわかりません。一方、目の前のマッペを片付ければその日は生産的な1日だと感じます。その達成感を得たいという誘惑にどう打ち勝つか、事前に逆算して自分のワークスタイルにあったシステムを構築しておくことが肝要です。私の場合は大学院生活序盤に誘惑に負け続けたことが祟り少し予定より遅れましたが、試験後すぐに論文を投稿することが出来ました。

当教室は病理学教室としては珍しく若者が沢山いるというのも幸運なことでした。「この病気知っているかー」という話題が出たときに、私以外全員朝飯前のため横綱の風格を醸し出してその場を切り抜け、その後鬼の形相で教科書をめくることもよくありました。沢山の若者の存在は、研究ミーティングでもある時は隠れ蓑になり、またある時は自分もやってやるぜという起爆剤になりました。専門医試験合格への修行は決して楽ではないですが、そんな中でも仲間同士でお尻を叩きあいながら前進出来たのはとても楽しい思い出です。十分な解剖例を経験し、1人も欠くことなく同期入局4人全員が試験に合格出来ました。常日頃からご指導下さいました先生方や関係者の皆様方へ厚く御礼を申し上げます。

日光東照宮の眠り猫を彫った伝説の彫刻家「左甚五郎」は素材の木をみた瞬間に完成型を思い描いたと言われています。試験合格！学位取得！と目の前のことに捉われることなく、一件遠回りに見えますが少し立ち止まって自身のビジョンを大切にして完成形を思い描きつつ、楽しみを見つけて取り組むことで、進むべき道が自ずと見えてくるかもしれません。

専門医試験を受けるまでに考えたこと

名古屋大学大学院医学系研究科　臓器病態診断学講座
内藤 裕

試験対策でなく、私が専門医試験に合格するまでに、経験したこと、自分なりに考えたことを書きました。専攻医の先生方のお役に立てましたら幸いです。

私は東京都立駒込病院で3年間の病理後期研修をし、その後名古屋大学の大学院に入学しました。自分のこれまでの4年間の環境は、病理診断にのめりこむことができ、診断の面白さや難しさを近くの先生の背中から感じることのできる、恵まれた環境でした。これまでご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。

後期研修中は特に2つのことを心がけていました。身近な先生に、当然やるべきこととして教えていただいたことで、現在も心がけていることです。

1つ目は、必ず肉眼像と組織像を対比し、病理総論と関連付けて解釈することです。切り出し時に肉眼像の特徴を覚え、きれいに写真撮影し、組織像で答え合わせをすることを心がけました。例えば、内視鏡画像のどの領域で癌が浸潤していたか？腫瘍がその色に見えたのはなぜなのか？その肉眼像はその腫瘍に普遍的な特徴なのか・むしろその症例の独特さなのか？と考えながら診断をするようにしていました。他の先生が切り出していた検体でも、気になった症例は覗いて覚えておき、標本をみるようにしました。また、特に解剖例においてですが、この見た目だとこの種類の炎症、というように肉眼像と総論的な解釈をなるべくつなげられるように心がけました。ただ、自分は解剖の経験数が少なく、パターンをあまり知りません。総論についても勉強不足と思います。これからも精進したいと思います。

2つ目は、既往標本を必ずみることです。前回確定診断がついていなかった場合、追加切除標本、転移例は必ず生検検体を引っ張り出しました。また、生検時の標本と、手術時の標本を比較し、見え方にはこのような違いがあって、この部分が採取されていて、だから生検では診断が難しかったのか…などと自分なりに解釈をするようにしました。

これらのことに加え、専門医試験合格のために不可欠だったと思うのは、後期研修の後輩や、病理科をローテして下さった臨床科の先生と顕微鏡を覗く時間です。標本、画像との比較について聞かれ、ウンウンと考える時間は貴重で、標本をみるだけでなく、本を読んだり、自分で論文を見つけたりという意欲につながったと思います。また、後期研修、そして現所属施設もですが、同世代の多い施設で研修できたのは、（飲み会も毎回楽しく）よかったと思います。

まだ分化方向不明の専門医ですが、これからも広い分野に興味を持って病理診断の勉強を続けたいと思います。最後になりますが、このような貴重な寄稿の機会をいただきました、浦野誠先生に御礼を申し上げます。

育児休暇中の病理専門医試験受験を振り返って

兵庫県立尼崎総合医療センター病理診断科　　辻村 万莉奈

この度合格体験記の寄稿の機会を賜りましたので、自身の試験勉強を振り返って述べさせていただきます。題名にもありますように、私は育児休暇中に今回の病理専門医試験を受験しました。10カ月ほどほぼガラス標本を検鏡できない生活でしたので大変不安でしたが、バーチャルスライドが普及した時代に生まれたおかげでなんとか試験に合格することができました。育児やその他の事情でなかなか顕微鏡を触れない状態で試験を受験することになった方も含め、これから受験される皆様の参考になれば幸いです。

I・II型問題の基本的な対策として、「組織病理アトラス」「病理診断クイックリファレンス」を隙間時間で読み、写真を見て病名を答えられるようにしました。特に後者は試験でよく出るが普段の業務ではあまり見ない疾患が多く掲載されていますので、効率的な試験勉強という観点からは一読しておいた方が良いように思います。本来は「外科病理学」で知識を補強するのが望ましいでしょうが、そこまで時間がとれませんでした。過去の合格体験記でも多くの先輩方がおっしゃっているように、II型問題の対策としては教科書の学習だけでは不十分で、在宅で実際の標本を見るツール（+バーチャルスライド操作に慣れるためのツール）として、新潟大学臨床病理学教室が運営されている病理標本ギャラリー、日本病理学会が運営されている希少がんE-ラーニングに大変お世話になりました。

III型問題に関しては、元来の不勉強もあり過去問を解くとあまりの出来なさに不安が募る一方でした。対策として、過去問や羊土社の「CPC形式でわかる身につく病理所見の見かた、病態の考えかた」に掲載されている症例で報告書・フローチャート記載の練習を繰り返しました。また、過去問を解く際は「実際には見られない所見/疾患（サイトメガロウイルス感染など）を心の目で見出さないこと」「副所見をとりこぼさないこと」を意識するようにしました。

産前は「業務から離れるとはいえ、『休暇』なんだし試験勉強する時間くらいあるだろう」などと完全に育児をナメておりましたが、いざ生まれてみると滅多に昼寝しない子のお世話で思うように勉強時間がとれず、授乳等々のためガラス標本を見に行く時間もあまりとれず、これまで受けてきた数々の試験の中でもダントツで自信がありませんでした。なんとか合格できたのは、ひとえにこれまでお世話になった先生方から賜ったご指導・励ましと家族のサポートのおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げるとともに、自分もこのご恩を誰かに還元することができるよう、病理医としてさらに研鑽に励む所存です。

専門医試験合格までを振り返って

京都大学医学部附属病院病理診断科　　保木 昌仁

まずは、私自身の少し長い略歴を。東大理学部生物学科を卒業後、そのまま院に進学も、色々思うことあり、大学院を中退して、北大医学部に学士編入しました。北大在学時代は、それぞれ1か月程度と短いながら第一病理や病院の病理診断科にお世話になり、在学中から病理を志望するようになりました。働く場所としては、出身である関西に戻ろうと考え、病理に進むのであれば、大学病院での初期研修がベターであろうと、京大医学部附属病院での初期研修を選択し、そのまま京大での病理専攻をスタート。まず京大病院で1年、その後、市中病院で2年研修し、専門医試験受験の年には再び京大病院に戻ったというのが、これまでの経緯です。

さて、私の場合、受験までに最も気をもんだのが、死体解剖資格の獲得です。研修した2つの病院だけでは件数が足りず、その他複数の関連病院にお邪魔して、解剖させていただきました。そうして、専攻医3年目の夏にやっと20件に到達した次第です。多数の病院で解剖すると書類集めも一苦労で、書類提出後も厚労省からの問い合わせがあったり、追加の書類提出を求められたりと、申請にも時間を要しました。ようやく解剖資格を得たのが受験の年の4月のことです。

というわけで、4月まではソワソワした気分が持続しており、受験について腰を据えて考えようとも思えず、試験の情報収集を開始したのは、受験3か月前である5月のGWでした。受かってしまえば、何とでも言えてしまいますが、日々の業務をこなしていれば、それほど追加で特殊な勉強をしなくても受かる試験にはなっていると思います。試験対策については、人それぞれだと思いますが、通例にならい、多少は述べておこうと思います。I型、II型試験に関しては、「専門医試験報告」と「病理診断クイックリファレンス2023」だけでも合格点はとれそうな気がします。学会HPでは「希少がんWSIによるE-ラーニング学習」が推奨されていますが、これは試験対策としてはややオーバースペックと感じました。とにかく筆記ですので、診断名を正しく書けるようにしておくのが肝要です。日本語であれば、「贅」とか。I型問題に関しては、肉眼所見を問うものもありますが、日々の切り出しや剖検で目を養うしかないと思います。III型試験に関しても、日々の症例を大切にするしかないと思いますが、問題を解く手順（小問をまず確認、有意な所見を書き出す等）、時間配分などは事前にシミュレートしておくのがよいでしょう。III型試験では、結構、疑心暗鬼になります。当然、「ない所見」を書いてしまうと、減点なので。最後は自分を信じるしかありません。あと、対策としては些細なことですが、試験用に新しいシャーペンを購入しました。最近のシャーペンはノックや振ったりする必要もないものがあり、オススメです。

以上、とりとめもなく書いてしまいましたが、どなたかの参考になれば幸いです。

専門医試験受験を振り返って

松江赤十字病院　病理診断科　　片岡 祐子

この度は「病理専門医試験・合格への道のり」への寄稿という貴重な機会をいただきありがとうございます。私は初期研修を修了後、母校である島根大学医学部の附属病院で病理の研修を始め、研修中に出産・育児休暇を経て、研修開始から5年目に専門医試験を受験しました。

勉強の仕方や家庭との両立はきっと他の先生もご記載のことと思いますので、ここからは試験当日について振り返ろうと思います。受付時間より少し早めに出発しましたが、会場につくとすでに多くの人が集まっておりました。服装はフォーマルな雰囲気の方からカジュアルな雰囲気の方までと様々でした。島根県からの受験は私1人でしたので、田舎者は…と思われないよう失礼のない服装にしましたが、私の席はたまたま空調の風が届きやすかったため、その日は猛暑でしたがジャケットを羽織ってきて正解だったと感じました。また、試験時間中は休憩時間を含め私語禁止でしたので、1人での受験でも寂しくはなかったです。試験中の会場は案外静かで、他の受験生のクリック音や鉛筆を走らせる音はそこまで気にならず試験に臨むことができました。実際に試験が始まると、少しの核腫大が異様に気になり始め（もしやdysplasiaなのでは…）と思ったり、（疾患名の中に「性」いるっけ？）（「増」の漢字が急に出てこない…）など中途半端な記憶が災いしたりと、正直に申し上げて自信満々に病理専門医を名乗れます！というほどの手応えはなかったと記憶しております。余談ですが、III型問題で気にしすぎかなと思いつつ回答用紙に記載した所見は全て面接で問われました。おそらく減点対象になったのでしょうが、面接の雰囲気は終始穏やかで、圧迫感を感じることなく受けることができました。2日目はすべてバーチャルスライドを用いた試験でした。なるべく操作に慣れるように努めていたこと、用意されたパソコンの操作性もスムーズで、特にストレスなく閲覧することができたと感じています。

試験全体の印象として、各分野からバランスよく出ていること、過去に問われたことのある疾患も多かったですが、切り出し時の肉眼所見や肺の解剖の問題が出るなど、普段の業務に即した問題も新たに組み込まれているように感じました。

試験終了から2週間ほど経ち、レターパックで合否結果が届きました。あまりにも薄く軽かったため、高校受験のときの不合格通知を思い出し戦慄しましたが、合格の文字を見て胸をなで下ろしました。無事合格することができたのは、これまで多くの病理の先生方、臨床の先生方からのご教示や、何よりも患者さんたちとの出会いを通して積むことができた経験の賜と、この場をお借りして深謝申し上げます。私はおそらくこの先何か大きなことを成し遂げる人間ではないと思いますが、私を医師として育ててくれた地域に少しでも恩返しできるよう今後も努力していきたいと思います。

口腔病理専門医試験・合格への道のり

徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔内科学分野
福場 真美

この度、口腔病理専門医試験について寄稿の機会をいただきまして非常に嬉しく思います。これまで御指導を賜りました先生方に厚く御礼申し上げます。

専門医試験を意識しだしたのは2年前ぐらいだったと思います。まず、病理学会HPの過去問と直近の合格体験記に目を通しました。難解すぎて困りましたが、医科の問題も含めて知らない疾患をノートにまとめる作業をとりあえず行いました。1年前ぐらいから、受験を決心し知識の整理に2023年4月に出版された「病理診断クイックリファレンス2023」と「CPC形式でわかる身につく病理所見の見かた、病態の考えかた」を使用しました。クイックリファレンスでは、口腔病理専門医試験の過去問で出題されていた疾患を中心に勉強しました。病理組織の見かたの方は、図が分かりやすくI、II型問題対策にもなりました。この2冊がなかったら、受験にも至らなかったと思います。私は2023年にも受験資格はあったのですが、これらを使って1年間勉強してぎりぎり合格することができました。

具体的な方法として、口腔病理専門医試験の過去問や専門医試験研修手帳の疾患で、組織像が思い浮かばないものの写真をパワーポイントファイルにまとめて、繰り返し参照しました。100枚ぐらいになりましたが、スライドに臓器名、ノートに疾患名や特徴を記載し、組織像から診断する練習ができました。試験はバーチャルスライドですので、病理学会のe-learningもよかったです。剖検講習会、生涯教育を使用しました。Web資料では、病理コア画像、口腔病理基本画像アトラス、新潟大学臨床病理学教室のデータベースも使わせていただきました。

その他にIII型問題対策として、「臨床病理検討会の進め方・活かし方：CPCの作法」、「剖検マクロ・ミクロ病理アトラス：天理よろづ相談所病院CPCより」、「徹底攻略！病理解剖カラー図解」が難しかったですが勉強になりました。細胞診は「読む・解く・学ぶ細胞診Quiz50, ベーシック篇」、「アトラス細胞診と病理診断」で確認しました。全身疾患については「病理組織免許皆伝：CD-ROM atlas of pathology」、「病理組織の見方と鑑別診断」の巻末問題で対策し、「組織病理カラーアトラス」でも知識を整理しました。「外科病理学」は直前に口腔領域のところだけチェックしました。I型文章問題は、過去問の内容のみ叩き込み、試験本番わからない問題は適当に答えるようにしました。

私は大学院で口腔病理学分野に所属しておりましたが、現在は臨床系の講座で勤務しており、試験の勉強は通勤時間や休日が中心となりました。しかし、講座の方で有休を5日間まで連続取得することが認められており、試験の前週は病理診断の時間にあてることができ、とても助かりました。関係各位に御礼申し上げます。今後も、病理診断知識の維持、向上に励みたいと思います。

病理専門医試験・合格への道のり

佐賀大学病因病態科学講座　診断病理学分野
橋口 真理子

この度無事に病理専門医試験に合格することができました。そしてこの合格体験記の寄稿という貴重な機会を頂きましたので、僭越ながらここに至るまでを書かせていただこうと思います。まずは結果にほっとしたのが正直なところですが、その余韻に浸る余裕は全くなく、あっという間に怒涛の日常業務に追われる日々になりました。私は、臨床研修医制度が始まる以前に医師になり、医師国家試験合格後、まっすぐ産科婦人科学教室に入局しました。臨床医として勤務する中、当時の指導医の影響をうけ、産婦人科専門医を取得後、細胞診専門医を取得し、いつの間にか指導医と同じ道を歩み、婦人科の病理カンファレンスを担当する立場になっていました。当時の産婦人科の病理カンファレンスは、産婦人科医が顕微鏡を使って標本を提示し、プレゼンテーションを行う形式でした。当直をしながら、夜な夜な教科書片手に顕微鏡をのぞき、カンファレンスの準備をしていた記憶があります。そのような中、病因病態科学講座で大学院生として学ぶ機会をいただき、紆余曲折を経ながらも今日に至ります。医師になった当初、まさか自分が専門医試験を3つも受けることになるとは思ってもいませんでしたが、3つ目にしてこの病理専門医試験が色々な意味で一番大変だったと思います。私の場合、まず死体解剖資格の取得からつまずきました。コロナ禍での解剖体数の減少もあり、5年間で20体という条件をなかなか満たすことができないでいました。そのような中、大学以外の連携施設の先生方も助けてくださり、なんとか取得することができました。あとは勉強あるのみでしたが、これも一筋縄ではいきませんでした。勉強量の多さもさることながら、最後にうけた専門医試験からはすでに10年以上経過しており、年齢にも逆らえず、体力と記憶力との闘いだった気がします。過去問を解く際には診断名のつづりを正確に思い出せず、パソコンの予測変換や校閲に甘えていた事を反省する日々でした。諸先輩方の助言をもとに、過去問を中心に勉強を開始し、病理診断クイックリファレンス、九州沖縄支部の先生方が作成してくださったティーチングファイル、試験対策のパワーポイント、教室の先生が作成されたノートや、資料などを活用させていただき、勉強してきました。日常の診断カンファレンス中には、試験対策として教室の先生方が情報をちりばめてくださり、細胞診は技師の皆様に教えていただき、本当にたくさんの方々にご指導いただきました。無事に合格はしましたが、知識の浅さや勉強不足であることは試験をうける事でより明確になった気がします。これからも日々の研鑽の積み重ねを大事にしていきたいと思います。最後になりましたが、この場をお借りし、ご指導賜りました先生方、技師の皆様、サポートしてくれた家族、医局を飛び出したにもかかわらず応援してくれた産婦人科の先生方に心から感謝申し上げます。

卒後最短（6 年目）での受験について

産業医科大学 1 病理　　小松 和貴

この度、卒後最短（6 年目）で専門医試験に合格したということで、原稿のご依頼をいただきましたが、卒後最短での合格には、勉強方法よりもむしろ試験までに受験資格を満たせるかどうかが重要だと感じています。特に、解剖例を集めることが大変だと思います。専攻医になったばかりの頃は、日常の診断業務だけでも忙しく感じるかもしれませんが、解剖の機会はいつ訪れるかわからないため、早い段階から積極的に執刀をしていくことが重要です。気をつけなければならない点は、死体解剖資格の申請には 20 例の解剖が必要なのですが、申請後、認定されるまでに半年かかることもあるということです。そのため、遅くても受験を考える前年度の半ばまでには 20 例の経験を積む必要があります。私の場合、受験前年の 9 月に死体解剖資格の申請を提出し、証明書が届いたのが 2 月でした。

本格的に試験勉強を始めたのは試験の 4 か月前からです。主に使用した教科書は『組織病理アトラス』で、疾患名を隠して単語帳のように写真を見て、すぐに疾患名が答えられるように何周も読みました。また、『病理診断クイックリファレンス』や『癌取扱い規約』も補助的に使い、同じ疾患でも異なる写真を意識して見るよう心がけました。並行して、細胞診に関しては『細胞診 Quiz ベーシック・アドバンス』を解きました。III 型問題対策としては、病理学会のホームページにある過去問を実際に手を動かして解くことで、試験のシミュレーションを行いました。使用した教科書については他の先生方と大差ないと思いますが、試験結果は思ったよりも点数が低く、合格ラインぎりぎりでした。反省点は、組織像と疾患名を一対一で覚えるという浅い勉強にとどまり、鑑別疾患を考えるなど、より多面的な理解が不足していたことです。根本的な病態生理の知識も不足しており、III 型問題で点数が伸び悩みました。付け焼刃的な勉強ではなく、日常診療の中で一例一例をしっかり考えて診断することが大切だと痛感しました。また、スペルや漢字の書き間違いがいくつかあり、それが減点に繋がったと思います。

また、個人的なことなのですが、今年の 6 月から小児科専攻医の妻が、育休から復帰してフルタイムで勤務を始め、私が育児と時短勤務をしながら試験勉強を並行する体制となりました。幸い、子どもは夜よく寝てくれたので、ある程度の勉強時間を確保できましたが、試験直前の追い込みが不十分でした。まとまった時間が取れなかった分、試験勉強は早めにスタートするべきだったと感じています。

＝＝支部報告＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

-- 北海道支部 ----------

北海道支部会報編集委員　　杉田 真太朗

学術活動報告

2024 年 9 月 28 日（土）、第 206 回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が市原真先生（JA 北海道厚生連 札幌厚生病院 病理診断科）のお世話のもと、札幌厚生病院新棟 3 階大会議室において開催されました。

症例検討は以下の通りです。

症例検討

症例番号/演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名（主なもの）/発表者の病理診断

24-07：痙攣を契機に指摘された右前頭葉腫瘍の一例/白井裕介[1]、小田義崇[1]、種井善一[2]、王磊[3]、津田真寿美[1,3]、岡本迪成[4]、田中伸哉[1,2,3]/[1]北海道大学医学院・医学研究院腫瘍病理学教室、[2]北海道大学病院病理診断科、[3]北海道大学化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）、[4]社会医療法人柏葉会柏葉脳神経外科病院脳神経外科/20 歳代/男性/脳/

Ganglioglioma

24-08：小円形細胞腫瘍の 3 例/杉田真太朗[1]、武井悠平[1]、保坂倫子[1]、柏木葉月[1]、菅原太郎[1]、藤田裕美[1]、村橋靖崇[2]、江森誠人[2]、村瀬和幸[3]、赤根祐介[4]/[1]札幌医科大学医学部病理診断学、[2]札幌医科大学医学部整形外科学講座、[3]札幌医科大学医学部腫瘍内科学講座・血液内科学、[4]札幌医科大学医学部小児科学講座/[1]80 歳代、[2]50 歳代、[3]10 歳代/[1]女性、[2]男性、[3]女性/[1,2,3] 軟部/

[1]Ewing sarcoma、[2]*CIC*-rearranged sarcoma、[3]Sarcoma with *BCOR* genetic alteration

24-09：下腹部皮膚の結節/中里信一[1,2]、堀田萌子[3]、本田　進[4]、森田裕介[3]、大塚紀幸[1,2]、松野吉宏[1,5]/[1]函館中央病院病理診断科、[2]北海道大学病院病理診断科/病理部、[3]函館中央病院皮膚科、[4]函館中央病院形成外科、[5]北海道がんセンターパソロジーセンター/50 歳代/男性/皮膚/

Sweat-gland carcinoma with neuroendocrine differentiation

24-10：特徴的な形態と免疫形質を呈した好酸性胞体を示す腎腫瘍の 1 例/中桐悠一郎[1]、青山怜史[1]、山口貴子[1]、石井保志[1]、三浪圭太[2]、小島史好[3]、辻　隆裕[1]/[1]市立札幌病院病理診断科、[2]市立札幌病院泌尿器科、[3]和歌山県立医科大学人体病理学講座/70 歳代/女性/腎臓/

Low-grade oncocytic tumor

また、症例検討に引き続き特別講演が開催さました。

特別講演　『原発性肝癌（肝細胞癌･肝内胆管癌･混合型肝癌）の病理診断とその臨床的意義について』

演者：国際医療福祉大学医学部・成田病院
病理・病理診断科教授
小無田美菜先生

座長：JA 北海道厚生連 札幌厚生病院
病理診断科主任部長
市原　真先生

2024 年 11 月 30 日（土）、第 207 回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が市原真先生（JA 北海道厚生連 札幌厚生病院 病理診断科）のお世話のもと、札幌厚生病院新棟 3 階大会議室において開催されました。

症例検討は以下の通りです。

症例検討

症例番号/演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/臓器名（主なもの）/発表者の病理診断

24-11：汎血球減少を来たし致死的な経過を辿った若年女性の骨髄病変/村上太郎[1]、山口雄大[2]、菊地慶介[1]/[1]JA 北海道厚生連帯広厚生病院病理診断科、[2]JA 北海道厚生連帯広厚生病院血液内科/20 歳代/女性/骨髄/
Systemic EBV-positive T-cell lymphoma of childhood

24-12：肺癌肉腫に対し免疫チェックポイント阻害剤が奏功した一例/大西志の歩[1]、岩崎沙理[1]、仲川心平[1]、大塚拓也[2]、片山優子[1]、庄司哲明[3]、田中　敏[1]、谷口浩二[1]/[1]北海道大学医学研究院統合病理学教室、[2]北海道大学病院病理診断科、[3]北海道大学病院呼吸器内科/60 歳代/男性/腎臓/
消化管 AA アミロイドーシスによる慢性偽性腸閉塞

24-13：経験は少ないと思われる典型的肺病変/立野正敏[1,3]、柳内　充[2,3]、小川弥生[2,3]/[1]釧路日赤病院病理診断科、[2]札幌徳洲会病院病理、[3]北海道腎病理センター/30 歳代/女性/[1]肺、[2]心臓、[3]腎臓、[4]肝臓、[5]膵臓/
子宮型羊水塞栓症

24-14：若年女性に発生した子宮頸部腫瘍の 1 例/棟方　哲[1]、浅野拓也[2]、山下　剛[2]/[1]市立函館病院病理診断科、[2]市立函館病院産婦人科/30 歳代/女性/子宮頚部/
Large cell neuroendocrine carcinoma

24-15：気胸で発症した肺多発嚢胞の 1 例/佐々木美羽[1]、市原　真[2]、牧野吉倫[2]、岩口佳史[2]、村岡俊二[2]、藤森賢人[3]、小林智史[3]、大塚満雄[3]、西原聖仁[4]、長　靖[4]/[1]札幌厚生病院初期研修医、[2]札幌厚生病院病理診断科、[3]札幌厚生病院呼吸器内科、[4]札幌厚生病院外科/40 歳代/女性/肺/
Birt-Hogg-Dubé syndrome

24-16：Behçet 病加療中に回腸末端部穿孔を来した 1 例/市原　真[1]、林真奈実[2]、上小倉佑機[2]、湯澤明夏[2]、谷野美智枝[2]、牧野吉倫[1]、岩口佳史[1]、村岡俊二[1]/[1]札幌厚生病院病理診断科/[2]旭川医科大学病院病理診断科/30 歳代/女性/回盲部/
Colchicine toxicity

-- 東北支部 ----------

東北支部会報編集委員　　鈴木 麻弥

1.　活動報告

第 99 回日本病理学会東北支部学術集会が、下記の内容で開催されました。東北支部では毎年 2 回の学術集会を開催しておりましたが、本年度から初の試みとして完全オンライン方式、かつ研究発表がメインとなる集会を 1 回加えることとなりました。本集会がその第 1 回となりました。

日　時：2024 年 12 月 7 日（土）
会　場：Web 開催
会　長：東北医科薬科大学大学院医学研究科　病理学分野
　　教授　中村保宏先生

【特別講演】
『病理的視点からはじめたがん微小環境研究
―免疫微小環境におけるマクロファージの役割―』
演　者：熊本大学大学院生命科学研究部　細胞病理学講座
　　菰原義弘先生
座　長：東北医科薬科大学大学院医学研究科　病理学分野
　　中村保宏先生

【ミニレクチャー】
『ChatGPT・生成 AI の概要と研究活動への活用』
演　者：東北医科薬科大学医学部　医療情報学教室
　　東北医科薬科大学病院　医療情報部
　　大佐賀敦先生
座　長：秋田大学医学部附属病院　病理診断科・病理部
　　南條博先生

【シンポジウム（教室紹介）】
『伝えたい「東北発病理学研究の魅力」～内分泌・泌尿器・乳腺病理編～』
座　長：杉本幸太郎（福島県立医科大学基礎病理学講座）
S1.　糖尿病研究を行う病理学講座
　水上浩哉 他（弘前大学大学院医学研究科バイオメディカルリサーチセンター 分子病態病理学講座）
S2.　乳癌におけるステロイドホルモンシグナルの可視化
　三木康宏 他（東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野 他）
S3.　日常病理診断におけるクリニカルクエスチョンから研究、実臨床へ
　大橋瑠子（新潟大学大学院医歯学総合研究科分子・診断病理学分野）
S4.　当教室での内分泌病理学研究の展開 ～副腎疾患を中心に～
　島田洋樹 他（東北医科薬科大学医学部病理学教室 他）

【ワークショップ】
座　長：矢嶋信久（八戸市民病院 病理診断科）
WS1.　胎盤絨毛内リンパ管様管腔の検討
　長沼　廣 他（岩手県立磐井病院病理診断科 他）
WS2.　Syntactic structure analysis revisited―最小木法で検出される人体上皮組織構築の原則と腫瘍化に伴う変化について
　千場良司（岩手県立中央病院病理診断科）
WS3.　体腔液検体の術中迅速細胞診における液状化細胞診（LBC 法）の有用性
　佐藤正樹 他（東北医科薬科大学病院病理部 他）
座　長：小山涼子（仙台医療センター病理診断科）
WS4.　大腸癌浸潤先進部の Myxoid stroma の意義
　菅原健登 他（山形大学医学部病理診断学講座）
WS5.　いつの間にか学生時代から続いた IgG4 関連疾患の研究
　北岡　匠 他（米沢市立病院 他）
WS6.　Ba/Sq 型尿路上皮癌進展におけるアンドロゲン受容体（AR）の発現意義
　酒井亮太郎 他（東北医科薬科大学医学部病理学教室）
座　長：刑部光正（岩手医科大学医学部 病理診断学講座）
WS7.　クルクミン類縁体による HSP70/HSP40 の機能阻害が、がん幹細胞画分に与える影響
　鈴木麻弥（秋田大学大学院医学系研究科　分子病態学・腫瘍病態学講座）
WS8.　分子病理におけるロングリードシークエンサーの活用例
　杉本幸太郎（福島県立医科大学基礎病理学講座）
WS9.　間質性肺炎合併肺腺癌における癌関連線維芽細胞と細胞外基質の特徴
　井上千裕 他（東北大学大学院医学系研究科病理診断学分野 他）

2.　開催予定

第 100 回日本病理学会東北支部学術集会

日　時：2025 年 2 月 15 日（土）、16 日（日）

会　場：東北大学星陵キャンパス艮陵会館（仙台）

会　長：秋田大学大学院医学系研究科分子病態学・腫瘍病態学講座
教授　大森泰文先生

-- 関東支部 ----------

関東支部会報編集委員　　林 雄一郎

開催報告

第 103 回、第 104 回日本病理学会関東支部学術集会が下記の内容で開催されました。

第 103 回日本病理学会関東支部学術集会

日　時：2024 年 10 月 19 日（土）

会　場：筑波大学春日キャンパス　春日講堂（つくば駅より徒歩約 10 分）

世話人：松原大祐先生（筑波大学医学医療系診断病理）

総合司会：川松夏実先生（筑波大学附属病院病理部）

前半の部　座長：朝山　慶先生（筑波大学附属病院病理部）

一般演題 1「HNF4α 陽性肺胞上皮を伴う器質化病変の一例」
演者：渡邊麻吏先生（筑波大学附属病院病理部）

一般演題 2「鑑別に苦慮した肺小円形細胞腫瘍の 1 例」
演者：小林倫子先生（日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科）

特別講演 1「肺癌病理学の最前線」
演者：林　大久生先生（順天堂大学人体病理学）
座長：鈴木理樹先生（東京大学医学部附属病院 病理部）

後半の部　座長：関本隆太郎先生（筑波大学附属病院病理部）

一般演題 3「特異な脳回様の十二指腸粘膜病変を呈した軽鎖沈着症」
演者：正門史也先生（東京大学医学附属病院病理部）

一般演題 4「肛門管原発の杯細胞腺癌が疑われた一例」
演者：岩原加奈先生（NTT 東日本関東病院病理診断科）

一般演題 5「複合免疫療法で治療した大動脈血管内膜肉腫の一剖検例」
演者：藤堂祉揚先生（自治医科大学附属病院 病理診断部）

特別講演 2「ポストパンデミック期の COVID-19 における課題」
演者：鈴木忠樹先生（国立感染症研究所病理部）
座長：望月　眞先生（帝京大学医療技術学部臨床検査学科）

第 104 回日本病理学会関東支部学術集会

日　時：2024 年 12 月 7 日（土）

会　場：東邦大学医学部（第三実習室）

世話人：栃木直文先生（東邦大学医療センター大森病院病理診断科）

一般演題 1「硬口蓋の孤立性線維性腫瘍の 1 例」
演者：望月　茜先生（東邦大学医療センター大森病院病理診断科）

一般演題 2「成人 T 細胞白血病治療中に発症した HHV-6 脳炎および EBV 陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 剖検例」
演者：高橋友香先生（JR 東京総合病院臨床検査科）

一般演題 3「眼窩内に限局した肉芽腫性血管炎の一例」
演者：小川 真毅 先生（総合病院国保旭中央病院　臨床病理科）

ミニレクチャー 1「細胞診標本におけるグロコット染色の検討」
演者：雨宮和紀先生（東邦大学医療センター大森病院　病院病理部）

ミニレクチャー 2「病理診断医としての社会貢献の一例 小学校がん教育」
演者：栃木直文先生（東邦大学医療センター大森病院　病理診断科）

特別講演 1「上部消化管腺腫とその周辺」
演者：関根茂樹先生（慶應義塾大学医学部病理学教室）

特別講演 2「血管炎の病理－日常診断で血管炎をみたら何を考えるか？－」
演者：髙橋　啓先生（東邦大学医療センター大橋病院病理診断科）

-- 中部支部 ----------

中部支部会報編集委員　　浦野 誠

夏の学校 2024 in 岐阜

日　時：2024 年 8 月 31 日（土）Zoom Webinar によるオンライン開催

世話人：宮崎龍彦先生（岐阜大学医学部附属病院病理部）

内　容：

中黒匡人（名古屋大学臓器病態診断学）
「病理研究者・病理診断医へのキャリアパス」

松尾美貴子（朝日大学病院病理診断科）
「医学生から専門医へ、独身から 3 児の母へ」

浦野　誠（藤田医科大学ばんたね病院 病理診断科）
「臨床医あがりの病理医のつぶやき･病理診断は天職だった　卒後 10 年で転身した自分が伝えたいこと」

宮崎龍彦（岐阜大学医学部附属病院病理部）
「病理学は基礎医学・臨床医学のおいしいとこ取りある研究者・病理医の例」

片山雅貴（岐阜県総合医療センター病理診断科）
「基幹病院における病理診断科の役割と運営」

守都敏晃（香川労災病院第二病理診断科）
「地方の病院病理医としての仕事と若手育成の楽しみ」

酒々井夏子（岐阜大学医学部附属病院病理部）
「子育てを卒業した病理医からのアドヴァイス」

武藤　碧（岐阜大学医学系研究科腫瘍病理）
「専攻医の生の声　病理専門医への階段を上ろう！」

小林一博（岐阜大学医学系研究科腫瘍病理）
「バーチャルスライドを用いたバーチャル剖検検討会」

次回学術集会予定

第 28 回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日　時：2025 年 3 月 15 日（土）

場　所：名古屋大学病院講堂

世話人：加留部謙之輔先生（名古屋大学臓器病態診断学分野）

テーマ：リンフォマニアが苦手な血液病理学

東海病理医会　検討症例報告

第 406 回

（2024 年 9 月 21 日　参加者 19 名　於：藤田医科大学）

症例番号/病院名/病理医/年齢（才代）/性/臓器/臨床診断/病理組織学的診断

5840/藤田医大ばんたね/浦野　誠/80/女/肝/肝細胞癌/
Hepatocellular carcinoma with inflammatory change

5841/諏訪中央/浅野功治/50/女/皮膚/肥厚性瘢痕/
Plaque-like CD34 positive dermal fibroma

5842/藤田医大岡崎医療セ/中川　満/60/女/甲状腺/甲状腺腫瘍/
Papillary carcinoma and follicular carcinoma, minimally invasive

5843/トヨタ記念/一安泰祐/70/女/卵巣/卵巣腫瘍/Adult granulosa cell tumor

5844/江南厚生/内藤　裕/70/女/付属器・腹膜/癌性腹膜炎/
Malignant mesothelioma, suspect

5845/中部国際医療セ/杉山誠治/70/女/肺/肺癌疑い/Metastatic breast cancer

5846/鈴鹿中央総合/村田哲也/80/女/軟部/胸壁皮下腫瘍/Burkitt lymphoma

5847/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/50/男/皮膚/血管平滑筋腫疑い/
Spiradenoma

5848/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/30/女/腎/腎癌/
Mixed epithelial and stromal tumor（MEST）

第 407 回

（2024 年 10 月 26 日　参加者 21 名　於：藤田医科大学）

5849/清水厚生/浦野　誠/70/女/乳腺/葉状腫瘍(疑)/
Pseudoangiomatous stromal hyperplasia（PASH）

5850/岐阜大/小林一博/30/女/皮膚/下腿紅斑/Leprosy, LL type

5851/岐阜大/松本宗和/70/女/甲状腺/甲状腺腫瘍/
Adenomatous goiter and follicular neoplasm

5852/岐阜大/大久保貴史/60/男/大脳/脳室内腫瘍/Subependymoma

5853/岐阜大/大久保貴史/20/女/大脳/脳室内腫瘍/Central neurocytoma

5854/鈴鹿中央総合/村田哲也/50/女/胃/胃腫瘍/Metastatic breast tumor

5855/諏訪中央総合/浅野功治/80/女/下顎骨/エナメル上皮腫/
Ameloblastic carcinoma

5856/藤田医大岡崎医療セ/中川　満/80/女/心嚢液/心嚢液貯留/
Fluid overload-associated large B cell lymphoma

5857/大垣市民/黒川　景/40/女/子宮/子宮筋腫/Epithelioid leiomyosarcoma

5858/大垣市民/黒川　景/80/女/結腸/横行結腸癌/Medullary carcinoma

5859/津島市民/市原亮介/40/男/皮膚/皮膚腫瘍/
Sebaceous nevus with secondary neoplasms

第 408 回

（2024 年 11 月 30 日　参加者 21 名　於：藤田医科大学）

5860/藤田医大ばんたね/浦野　誠/30/女/咽喉頭/咽喉頭粘膜びらん/
Oropharyngeal syphilis

5861/藤田医大岡崎医療セ/西島亜紀/50/男/リンパ節/リンパ節炎/
Syphilitic lymphadenitis

5862/藤田医科大学/稲田健一/70/女/子宮/子宮体癌/
High-grade serous carcinoma with yolk sac-like features

5863/岐阜大/小林一博/50/男/皮膚/掻痒性発疹/Lichen amyloidosis

5864/岐阜大/小林一博/60/男/小脳/小脳腫瘍/Hemangioblastoma

5865/鈴鹿中央/村田哲也/80/女/胃/胃癌/Metastasis of ALK-positive lung cancer

5866/中部国際医療セ/杉山誠治/60/女/鼻腔/鼻腔腫瘍/Adenoid cystic carcinoma

5867/名古屋西部医療セ/石川　操/50/女/肝/肝腫瘍/
Angiomyolipoma, inflammatory type

5868/名古屋西部医療セ/石川　操/50/女/直腸/粘膜下腫瘍/
High-grade sarcoma, suspect

5869/名古屋西部医療セ/石川　操/60/男/気管支/気管支腫瘍/
Atypical carcioid tumor

5870/岐阜大/酒々井夏子/40/女/縦隔/前縦隔腫瘍/Thymic carcinoma

5871/藤田医大岡崎医療セ/中川　満/60/男/皮膚/粉瘤疑い/
Papillary tubular adenoma

5872/トヨタ記念/島　寛太/60/男/リンパ節/悪性リンパ腫疑い/
Nodal marginal zone B cell lymphoma, suspect

5873/トヨタ記念/島　寛太/70/男/大脳/脳膿瘍/Toxplasmosis

5874/大垣市民/黒川　景/80/女/卵巣/卵巣癌/High-grade serous carcinoma

-- 近畿支部 ----------

近畿支部会報編集委員　　竹内 康英

I.　活動報告

日本病理学会近畿支部第 106 回学術集会

日本病理学会近畿支部第 106 回学術集会が下記の内容で開催されました。検討症例，画像等につきましては近畿支部ホームページ（http://jspk.umin.jp/）にて閲覧可能です。

アカウント･パスワードの必要な方は近畿支部事務局（kinpatho@kuhp.kyoto-u.ac.jp）までお尋ね下さい。

開催日：令和 6 年 10 月 5 日（土）WEB 開催
世話人：羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院）
モデレーター：神澤真紀先生（西神戸医療センター）
テーマ：神経内分泌

10：50～11：00　開会の挨拶：神澤真紀先生
（神戸市立西神戸医療センター 病理診断科）

11：00～11：20
症例検討 1019『若年女性における子宮頸部腫瘤の一例』
コメンテーター：田原紳一郎先生
（大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学講座）
福留拓人先生、他（京都大学医学部附属病院 病理診断科）

11：20～11：40
症例検討 1020『直腸 NET-G1 多発の一例』
コメンテーター：神澤真紀先生（神戸市立西神戸医療センター 病理診断科）
今井幸弘先生、他（加古川中央市民病院 病理診断科）

11：40～12：00
＜令和 5 年度 人体病理学 学術奨励賞公募部門授賞講演＞
『Ovarian high-grade serous carcinoma cells with low SMARCA4 expression and high SMARCA2 expression contribute to platinum resistance.』
城戸完介先生
（大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学講座・病理診断科）

12：00～13：00　休憩

13：00～14：00
＜特別講演＞
座長：伊藤智雄先生（神戸大学医学部附属病院 病理部）
『消化器神経内分泌腫瘍の網羅的ゲノム解析』
谷内田真一先生（大阪大学大学院医学系研究科医学専攻ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学）

14 : 00〜14 : 10　休憩（10 分間）
14 : 10〜15 : 10　＜教育講演 1 ＞
14 : 10〜14 : 40
＜教育講演 1-1 ＞
座長 : 羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院 病理診断科）
『膵・消化管神経内分泌腫瘍の病理診断』
福嶋敬宜先生（自治医科大学医学部病理学講座 包括病態病理学部門）
14 : 40〜15 : 10
＜教育講演 1-2 ＞
座長 : 神澤真紀先生（神戸市立西神戸医療センター 病理診断科）
『（全身性）機能性 NET 治療の最前線』
福岡秀規先生（神戸大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科）
15 : 10〜15 : 20　休憩（10 分間）
15 : 20〜16 : 20　＜教育講演 2 ＞
座長 : 河原邦光先生（兵庫県立はりま姫路総合医療センター病理診断科）
15 : 20〜15 : 50
＜教育講演 2-1 ＞
『肺神経内分泌腫瘍の病理診断』
神保直江先生（神戸大学医学部附属病院病理診断科）
15 : 50〜16 : 20
＜教育講演 2-2 ＞
『褐色細胞腫/パラガングリオーマ，下垂体神経内分泌腫瘍の診断』
神澤真紀先生（神戸市立西神戸医療センター病理診断科）
16 : 20〜16 : 30 閉会の挨拶、次回開催案内

II.　今後の活動予定

第 107、108 回学術集会は下記の開催を予定しております。専門医資格更新単位の発行を予定しています。参加登録方法は近畿支部ホームページにて案内予定です。

第 107 回学術集会
開催日 : 令和 6 年 12 月 21 日（土）（WEB 開催）
世話人 : 羽賀博典先生（京都大学医学部附属病院）
モデレーター : 山下大祐先生
（神戸市立医療センター 中央市民病院）
テーマ : リンパ節（非腫瘍）

第 108 回学術集会
開催日 : 令和 7 年 2 月 1 日（土）
世話人 : 井上　健先生（大阪市立総合医療センター）
モデレーター : 藤本正数先生（京都大学医学部附属病院）
安原裕美子先生（堺市立総合医療センター）
テーマ : 薬剤性疾患，移植片対宿主病（GVHD）
会　場 : 大阪市立総合医療センター さくらホール

詳しくは近畿支部ホームページをご参照ください。

-- 中国四国支部 ----------

中国四国支部会報編集委員　　水野 洋輔

A.　開催報告

第 145 回学術集会

日本病理学会中国四国支部第 145 回学術集会が下記の内容で開催されました。

発表スライドや投票結果は https://plaza.umin.ac.jp/csp-kouhou/ でご覧ください。

開催日 : 令和 6 年 10 月 5 日（土）12 : 35〜16 : 45
世話人 : 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科病理学（腫瘍病理）
山元英崇教授
開催形式 : ハイブリッド開催
（岡山大学医学部臨床第一講義室/Cisco Webex meetings）

特別講演
「神経変性疾患およびプリオン病の近年の病理診断基準とトピックス」
国立病院機構大牟田病院　本田裕之先生

演題番号/タイトル/出題者（所属）/出題者診断/最多投票診断
S2922/脳腫瘍/伏見聡一郎（姫路赤十字病院病理診断科）/
Astroblastoma/Ependymoma
S2923/腰椎硬膜内髄外腫瘤/渡邊 俊介（徳島赤十字病院 病理診断科）/
Cauda equina neuroendocrine tumor with carcinoid feature/
Cauda equina neuroendocrine tumor
S2924/前縦隔結節/浅田 昌紀（倉敷中央病院 病理診断科）/
Rosai-Dorfman disease/Rosai-Dorfman disease
S2925/皮膚腫瘍/長瀬真実子（島根大学医学部 器官病理学）/
Basosquamous carcinoma/Basal cell carcinoma
S2926/皮膚病変/松浦 悠実（川崎医科大学 病理学）/
Desmoplastic melanoma/Desmoplastic melanoma
S2927/顔面皮膚腫瘍/籔下 広樹（広島市立広島市民病院 病理診断科）/
Pleomorphic dermal sarcoma/Atypical fibroxanthoma
S2928/腹腔内腫瘤/渡邊 光（岡山大学病院 病理診断科）/
Fat-forming（Lipomatous）solitary fibrous tumor/Liposarcoma
S2929/右精索および腹膜病変/園部 宏（国立病院機構福山医療センター 病理診断科）/
Well-differentiated papillary mesothelial tumor/
Well-differentiated papillary mesothelial tumor
S2930/右腎腫瘍/谷口 恒平（広島市立広島市民病院 病理診断科）/
Mixed epithelial and stromal tumor/Mixed epithelial and stromal tumor
S2931/卵巣腫瘍/能勢聡一郎（岡山済生会総合病院 病理）/
Lip leiomyoma/Sclerosing stromal tumor
S2932/子宮腫瘍/本間りりの（広島市立広島市民病院 病理診断科）/
Placental site trophoblastic tumor/Placental site trophoblastic tumor
S2933/子宮腫瘍/大木 知佳（岡山大学病院 病理診断科）/
Fumarate hydratase-deficient leiomyoma/Leiomyoma

B. 開催予定

第 146 回学術集会

日　時：令和 7 年 2 月 1 日（土）13：00～予定

世話人：鳥取大学医学部附属病院病理部　桑本聡史先生

開催形式：Web 開催（‘Cisco Webex Meetings’）

特別講演：「分子病理学診断・研究の Up to date 形態解析から遺伝子解析まで」
九州大学病院病理診断科・病理部副部長／准教授
岩崎 健先生

-- 九州沖縄支部 ----------

九州沖縄支部編集委員　　立石 悠基

1. 活動報告

1）第 401 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日　時：2024 年 9 月 28 日（土）13：00～

場　所：Web 開催（Webex meetings 使用）

世話人：大分大学医学部　診断病理学講座　駄阿勉先生

合同カンファレンス・テーマ：小児

臨床コメンテーター：大分大学医学部小児科学講座
教授　井原健二先生

病理コメンテーター：大阪公立大学 診断病理・病理病態学
教授　孝橋賢一先生

参加数：161 名

第 401 回九州・沖縄スライドコンファレンス
臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断

座長：中園裕一（別府医療センター）

1 下顎骨腫瘍/小山雄三-川村和弘/大分大学医学部診断病理学講座/5 歳/男性/
Desmoplastic fibroma of bone/
Desmoplastic fibroma of bone

2 左上顎洞腫瘍/首里雄天-玉城智子/琉球大学病院 初期研修医 2 年目-病理診断科/10 代/女性/
Myeloid sarcoma/
Rhabdomyosarcoma

3 甲状腺腫瘍/黒濱大和/長崎大学原研病理-やました甲状腺病院/10 代/女性/
Follicular tumor of uncertain malignant potential（FT-UMP）, DICER1 related/
Follicular carcinoma

座長：三原勇太郎（久留米大学）

4 肺腫瘍/福原雅弘/九州大学形態機能病理/生後 1 か月/男性/
Fetal lung interstitial tumor（FLIT）/
Fetal lung interstitial tumor（FLIT）

5 肝病変/糸山昌宏/九州大学構造病態病理学/10 代/女性/
Autoimmune hepatitis/
Autoimmune hepatitis

6 左腎腫瘍/佐藤陽之輔/熊本大学病院 病理診断科/0 歳 2 ヶ月/男性/
Congenital mesoblastic nephroma/
Congenital mesoblastic nephroma

座長：清澤大裕（飯塚病院）

7 腎腫瘍/川村和弘/大分大学医学部診断病理学講座/生後 5 か月/女性/
Rhabdoid tumor of the kidney/
Rhabdoid tumor of the kidney

8 性腺/村上未樹/鹿児島大学　病理学分野/10 代/女性/
Gonadal dysgenesis/
Gonadal dysgenesis

9 顎下リンパ節 /小山雄三/大分大学医学部診断病理学講座/7 歳/男性/
Nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma/
Hodgkin lymphoma

10 多発骨病変/照屋響之右/琉球大学病院 病理診断科/2 歳/男性/
Mendelian susceptibility to mycobacterial disease（MSMD）, BCG induced osteomyelitis/
Granulomatous inflammation

座長：北薗育美（鹿児島大学）

11 耳下腺部腫瘍/中園裕一/別府医療センター/10 代/男性/
Desmoplastic small round cell tumor/
Desmoplastic small round cell tumor

12 軟部腫瘍/都築諒/宮崎大学医学部病理学講座腫瘍形態病態学分野/3 歳/男性/
Extrarenal rhabdoid tumor/
Chordoma

13 後腹膜腫瘍/井樋有紗/佐賀大学医学部附属病院病理部・病理診断科/2 歳 6 か月/女性/
Ganglioneuroma（ROHHAD syndrome）/
Ganglioneuroma

座長：和田純平（大分医師会立アルメイダ病院）

14 大腿部軟部腫瘍/久保千幸/九州労災病院/10 代/女性/
Myxoid liposarcoma/
Myxoid liposarcoma

15 右前頭葉腫瘍/福島剛/宮崎大学医学部病理学講座腫瘍形態病態学分野/10 代/男性/
Diffuse high-grade glioma, H3-wildtype and IDH-wildtype, NOS, possibly included by irradiation/
Glioma

2）第 402 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日　時：2024 年 11 月 30 日（土）13：00～

場　所：Web 開催（Webex meetings 使用）

世話人：福岡大学医学部　病理学講座　濱崎慎先生

参加数：171 名

第 402 回九州・沖縄スライドコンファレンス
臨床診断あるいは発表演題名/発表者/発表者の所属/症例の年齢/症例の性別/出題者診断/投票最多診断
座長：小山雄三（大分大学）

1　下顎腫瘍/黒木麻由/宮崎大学医学部病理学講座構造機能病態学分野/20 代女性/
Odontogenic carcinoma with dentinoid（Clear cell odontogenic carcinoma）/
Clear cell odontogenic carcinoma

2　鼻副鼻腔腫瘍/小坂峻平/産業医科大学/60 代/男性/
Biphenotypic sinonasal sarcoma/
Synovial sarcoma

座長：谷川雅彦（久留米大学）

3　食道胃接合部腫瘍/甲斐敬太/佐賀大学医学部附属病院　病理診断科/60 代/男性/
Amelanotic melanoma/
Malignant melanoma

4　膵腫瘍/野口紘嗣/鹿児島大学病理学分野/30 代/女性/
Mixed serous-neuroendocrine neoplasm associated with von Hippel-Lindau disease/
NET（neuroendocrine tumor）

座長：山田裕一（福岡病理診断科クリニック）

5　多発皮下硬結/今嶋真緒/九州大学/9 歳/男性/
Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma/
Subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma

6　皮膚腫瘤/松田亜依/福岡大学医学部病理学教室/50 代/男性/
Cutaneous syncytial myoepithelioma/
Hamartoma

7　右上腕皮下腫瘍/門脇裕子/大分大学/60 代/男性/
Angiofibroma of soft tissue/
Angiofibroma of soft tissue

2.　開催予定

第 403 回九州・沖縄スライドコンファレンス
開催日時：2024 年 1 月 18 日（土）現地開催
世話人：佐世保市総合医療センター
病理診断科診療科長　林洋子先生
学術講演も同時開催されます。
学術講演　川崎医科大学病理学　教授　森谷卓也先生
「乳腺の病理 up to date」

第 404 回九州・沖縄スライドコンファレンス
開催日時：2024 年 3 月 8 日（土）Web 開催
（Webex meetings 使用）
世話人：福岡県済生会福岡総合病院病理診断科
主任部長　加藤誠也先生
福岡赤十字病院病理診断科　部長　西山憲一先生
千鳥橋病院病理科　病理部長　松下能文先生
学術講演も同時開催されます。
学術講演　岡山大学大学院病理学分野（腫瘍病理）
教授　山元英崇先生
「頭頸部の “低分化・未分化” な腫瘍の病理診断：Practical Approach and Pitfall」

==========

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mail などで御投稿下さい。

病理専門医部会会報編集委員会：池田純一郎（委員長）、杉田真太朗（北海道支部）、鈴木麻弥（東北支部）、林雄一郎（関東支部）、浦野　誠（中部支部）、竹内康英（近畿支部）、水野洋輔（中国四国支部）、立石悠基（九州沖縄支部）

==========